令和　７年　８月　１日

令和６年度　特別の教育課程の実施状況等についてのまとめ

１．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施の効果及び課題

・特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

グローバル化に対応しつつ、諸課題を主体的に解決し得る持続可能な社会の担い手としての資質・能力を育むことをめざして、第3、4学年に「地歴総合Ⅰ・Ⅱ」を新設し、中学の歴史分野、高校の地理総合・歴史総合の科目横断的な取り組みを進めている。特に、現代の諸課題を歴史・地理それぞれの見方・考え方を共に使って考察することが可能になり、その成果は「総合的な探究の時間」の科目融合的な課題設定にも表れている。

また、音楽・美術においては、中学校と高等学校の学習内容の整理統合を、資質能力ベースの観点から進めており、単なる技能習得にとどまらない、生涯を通じて生きる力の育成に成果を上げている。

・学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「歴史総合」「地理総合」の設置は、個別の知識習得にとどまらない、現代社会を歴史的・地理的に考察する見方・考え方の習得を目指したものである。そうした点で、中学の各分野の学習をふまえた「地歴総合Ⅰ・Ⅱ」の取組は、大変重要なものであり、次の指導要領を展望したときに、その議論の素材を提供できると考えている。実際に、8月に開催された「第58回地理教育研究部会」において実践報告を行い、地理教育の課題と可能性について議論を深めた。

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

本校 HP（https://nwuss.nara-wu.ac.jp/sss/wp-content/uploads/25syllabus.pdf）において該当科目も含めたシラバス（目標、育てたい力、学習計画、評価の観点）を4月に広く公開し、あわせて生徒・保護者にその内容の案内をしている。

学校評議員会・関係者評価委員会（6月実施）において、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）や特別の教育課程を含め本校の教育課程の特徴や教育活動の説明を行い、方向や実施状況についての意見をいただいている。

２．次年度へむけての取組の方向性

生徒の授業評価については、「授業評価アンケート」を実施し継続的に成果や課題の考察を進めているが、より客観的なカリキュラム評価が必要である。「学校評価アンケート」に当該科目の評価を含めてエビデンスをさらに蓄積するなど、特別の教育課程の実施の効果及び課題について、さらなる分析を進めていきたい。